

経済・金融フラッシュ

No.07-132 2008/01/11

12月マネー関連～投信でもサブプライムの影響色濃く

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 矢嶋 康次

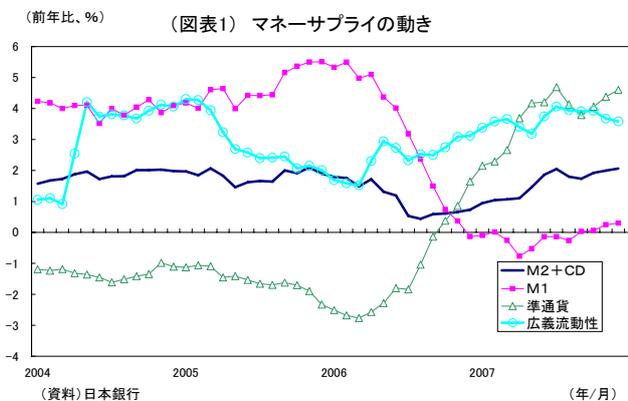
TEL:03-3512-1837 E-mail:yyajima@nli-research.co.jp

1. マネーサプライ：投信でもサブプライムの影響色濃く

マネーサプライ統計（1/11日公表）によれば、12月のM2+CDは前年比2.1%と3ヶ月連続で伸び率が高まっている。（図表1）。

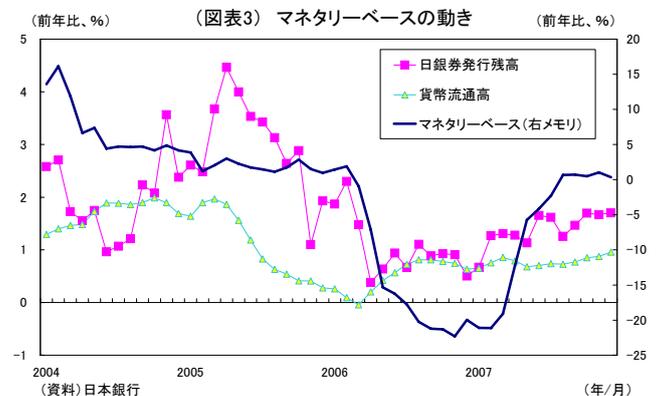
M1は10月0.1%、11月0.2%。12月0.3%と緩やかな増加が続いている。

広義流動性は、金商法、サブプライム問題の影響などから投資信託の伸び率（10月30.7%、11月29.3%、12月27.6%）が落ちてきていることなどが響き、10月3.9%、11月3.7%、12月3.6%と伸び率低下が継続している（図表2）。



12月分マネタリーベース（1/7日公表）は、前年比0.4%と11月分1.0%から伸び率が低下した（図表3）。

日銀券発行残高1.7%、貨幣流通高1.0%は安定した動きが続いている。



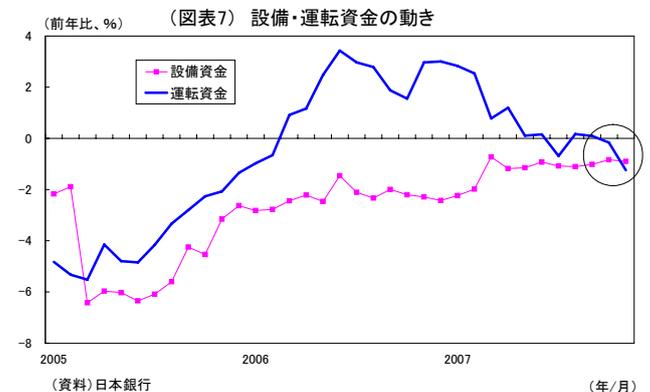
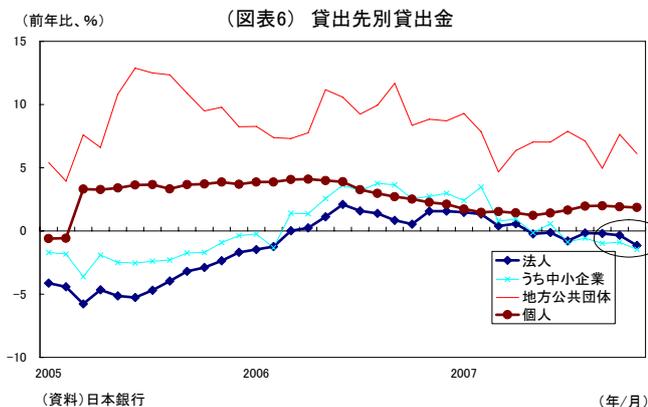
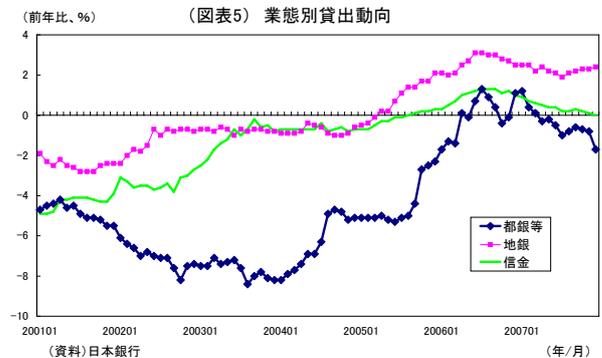
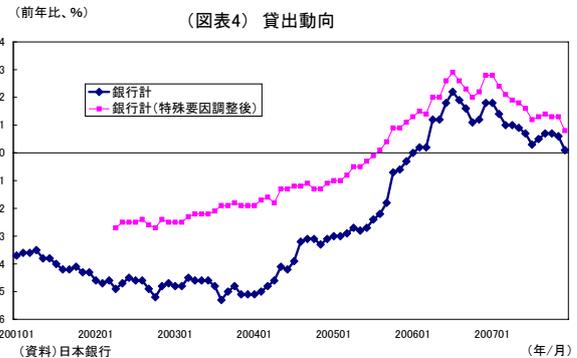
2. 貸出動向：頭打ちの状況が続く

日本銀行が1月11日に公表した貸出・資金吸収動向等によると、12月の総貸出（平残、銀行・信金計）は前年比0.1%と23カ月連続のプラスとなった。（図表4）。

業態別では、地銀は同2.4%と比較的高い伸びが続いているが、都銀等は同▲1.7%と9カ月連続で前年比マイナスが続いている。（図表5）。

貸出先別貸出金（1/7日公表、11月分）を見ると、法人向け貸出は11月▲1.2%と7カ月連続でマイナスとなっている（図表6）。

資金用途では、設備資金は緩やかにマイナス幅を縮小させているが、運転資金の落ち込みが大きくなっている（図表7）。



(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)